

Ⅲ 世帯員の健康状況

1 自覚症状の状況

自覚症状のある者（有訴者）は人口千人あたり317.1人（この割合を「有訴者率」という。）となっている。

有訴者率（人口千対）を性別にみると、男281.4、女350.5で女が高くなっている。

年齢階級別にみると、「5～14歳」の201.2が最も低く、年齢階級が高くなるに従って上昇し、「75～84歳」では537.1となっている。（表11）

有訴者の症状をみると、男では「腰痛」が最も高く、次いで「肩こり」、「せきやたんが出る」の順、女では「肩こり」が最も高く、次いで「腰痛」「手足の関節が痛む」の順となっている。（図14）

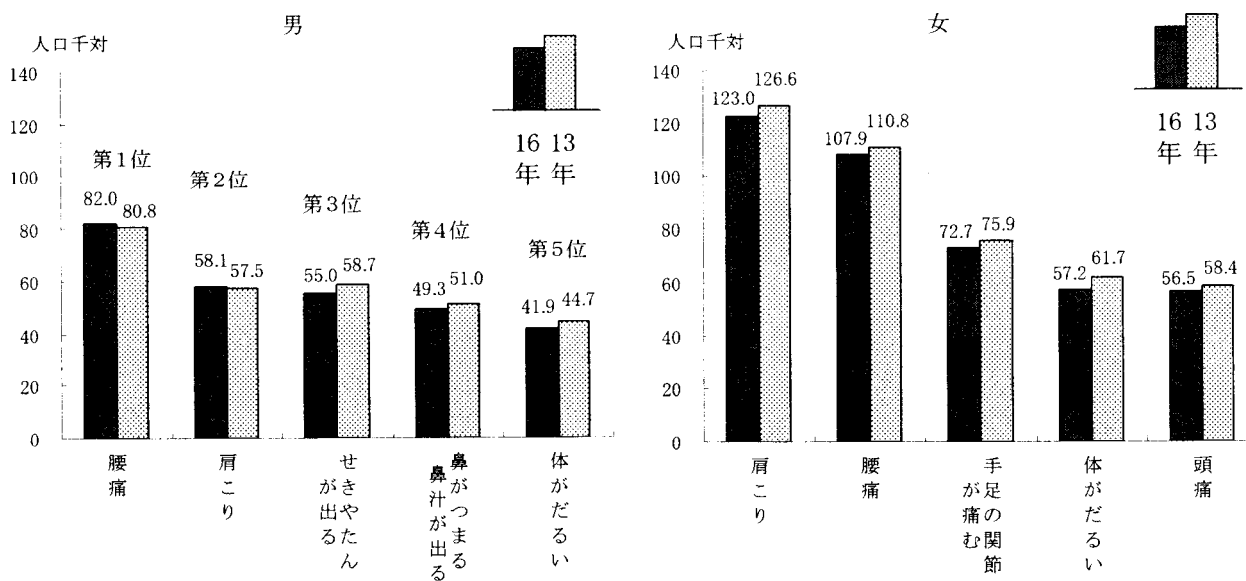
表11 性・年齢階級別にみた有訴者率（人口千対）

年齢階級	平成16年			平成13年		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	317.1	281.4	350.5	322.5	284.8	358.1
0～4歳	267.4	277.3	257.1	283.9	299.4	267.7
5～14	201.2	206.8	195.3	211.3	217.7	204.6
15～24	203.4	171.4	236.1	206.4	180.0	233.9
25～34	246.0	201.0	289.1	252.1	205.6	297.7
35～44	272.8	235.6	308.7	288.1	244.9	330.2
45～54	304.2	262.0	345.6	321.2	271.1	370.1
55～64	367.3	330.7	401.9	383.6	346.3	418.7
65～74	462.1	427.0	493.1	475.1	439.6	505.9
75～84	537.1	514.0	552.9	544.8	521.4	559.5
85歳以上 (再掲)	529.4	538.4	525.3	546.9	543.7	548.4
65歳以上	493.1	461.3	517.4	502.7	469.1	527.9
70歳以上	518.0	489.7	538.0	525.9	498.8	544.4

注：1）有訴者には入院者は含まないが、分母となる世帯人員数には入院者を含む。

2）「総数」には、年齢不詳を含む。

図14 性別にみた有訴者率の上位5症状



2 通院者の状況

傷病で通院している者（通院者）は人口千人あたり325.4人（この割合を「通院者率」という。）となっている。

通院者率（人口千対）を性別にみると、男302.7、女346.7で女が高くなっている。

年齢階級別にみると、「15～24歳」の123.0が最も低く、年齢階級が高くなるに従って上昇し、「75～84歳」で688.3となっている。（表12）

通院者の傷病をみると、男女とも「高血圧症」が最も高くなっている。（図15）

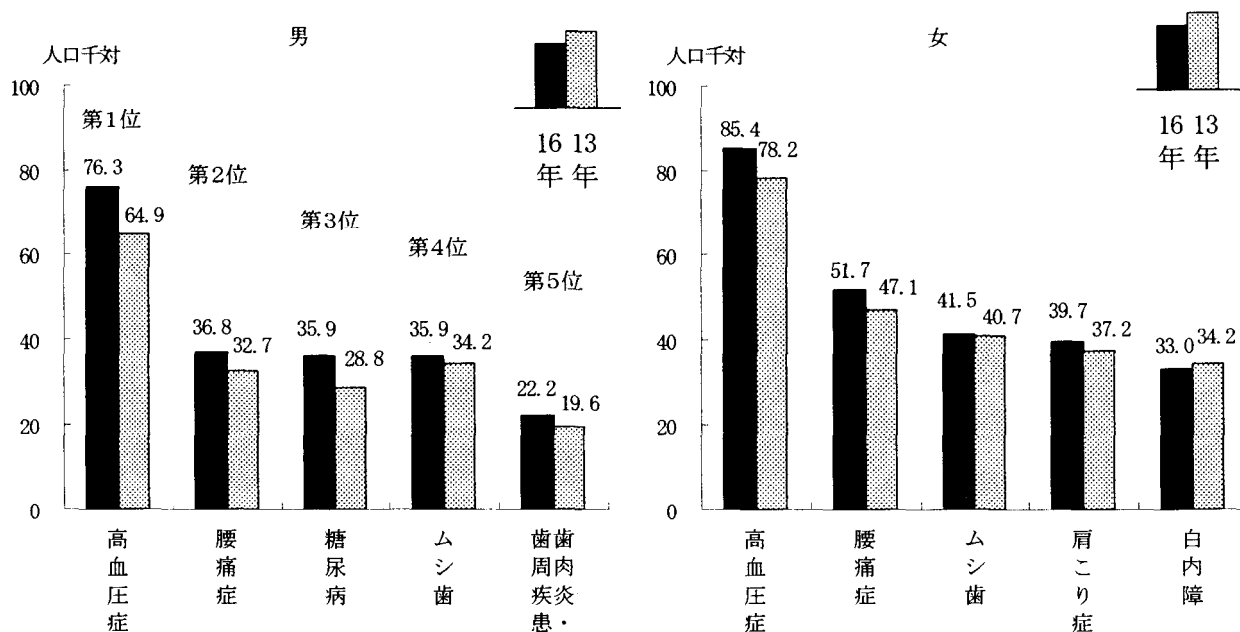
表12 性・年齢階級別にみた通院者率（人口千対）

年齢階級	平成16年			平成13年		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	325.4	302.7	346.7	313.8	287.4	338.6
0～4歳	183.0	202.1	163.0	192.7	212.9	171.9
5～14	179.9	191.7	167.6	175.8	187.0	164.2
15～24	123.0	107.4	139.0	125.1	112.6	138.2
25～34	170.7	134.7	205.2	166.3	130.7	201.2
35～44	206.7	189.4	223.4	211.7	194.0	229.1
45～54	303.0	287.6	318.0	303.3	279.6	326.6
55～64	448.5	430.6	465.4	452.5	432.7	471.2
65～74	612.0	595.8	626.3	611.5	587.7	632.1
75～84	688.3	685.0	690.5	674.7	657.9	685.4
85歳以上 (再掲)	618.3	635.4	610.5	621.3	622.7	620.7
65歳以上	637.9	626.2	646.9	631.6	609.4	648.3
70歳以上	666.3	658.5	671.9	658.5	643.2	668.9

注：1）通院者には入院者は含まないが、分母となる世帯人員数には入院者を含む。

2）「総数」には、年齢不詳を含む。

図15 性別にみた通院者率の上位5傷病



3 日常生活への影響

6歳以上の者（入院者は除く。）について、健康上の問題で日常生活への影響がある者は人口千人あたり110.2人（この割合を「日常生活に影響ある者率」という。）となっている。

日常生活に影響ある者率（人口千対）を性別にみると、男99.3、女120.3となっている。

影響の内容をみると、「仕事・家事・学業」47.8、「日常生活動作」37.4、「運動」33.6、「外出」33.5となっており、男女ともに「仕事・家事・学業」が最も高くなっている。（表13）

表13 性・年齢階級別にみた日常生活への影響がある者（複数回答）率（人口千対）
平成16年

性 年齢階級	日常生活への 影響がある者	日常生活への影響の内容				
		日常生活動作	外 出	仕事・家事 ・学業	運 動	その他
総 数	110.2	37.4	33.5	47.8	33.6	15.1
6～14歳	38.5	9.4	3.4	10.2	22.5	6.2
15～24	47.0	12.7	7.4	19.5	18.8	6.7
25～34	54.8	14.9	11.4	29.0	16.2	9.8
35～44	68.2	16.8	11.5	36.0	21.7	11.6
45～54	92.9	22.1	17.0	47.1	30.7	14.7
55～64	116.0	31.3	27.4	53.2	37.9	17.8
65～74	190.1	65.1	68.8	78.3	57.4	22.8
75～84	296.8	131.6	137.7	116.0	69.8	31.1
85歳以上 (再掲)	416.8	269.6	218.2	131.5	86.8	44.6
65歳以上	246.1	105.7	105.2	95.6	64.2	27.6
70歳以上	281.4	128.5	128.2	107.9	68.2	30.2
男	99.3	31.6	26.2	38.6	34.9	14.6
6～14歳	41.9	9.9	3.4	11.0	25.4	7.4
15～24	45.5	12.1	6.5	16.3	21.9	6.5
25～34	47.6	12.3	6.9	24.2	15.0	8.7
35～44	62.2	15.7	8.5	29.6	21.6	11.1
45～54	83.8	19.1	12.7	39.7	30.3	13.4
55～64	112.4	30.1	24.2	47.9	41.3	17.5
65～74	185.4	63.0	62.1	64.8	64.6	23.7
75～84	280.1	119.1	118.8	88.4	77.3	34.7
85歳以上 (再掲)	399.8	238.7	214.0	118.3	95.3	48.9
65歳以上	228.8	91.9	89.7	75.6	70.5	28.8
70歳以上	258.8	110.4	109.8	83.4	73.9	31.9
女	120.3	42.7	40.3	56.2	32.4	15.6
6～14歳	35.0	8.9	3.5	9.4	19.6	5.0
15～24	48.6	13.2	8.3	22.7	15.8	6.9
25～34	61.6	17.3	15.6	33.6	17.3	10.9
35～44	74.0	17.8	14.3	42.3	21.9	12.1
45～54	101.9	25.2	21.3	54.5	31.0	16.1
55～64	119.3	32.4	30.5	58.2	34.8	18.1
65～74	194.3	67.0	74.7	90.1	51.0	22.1
75～84	308.3	140.1	150.6	135.0	64.7	28.7
85歳以上 (再掲)	424.6	283.7	220.1	137.5	83.0	42.6
65歳以上	259.3	116.3	117.1	110.9	59.3	26.6
70歳以上	297.3	141.4	141.1	125.2	64.1	29.0

注：日常生活への影響がある者には入院者は含まないが、分母となる世帯人員数には、入院者を含む。

4 健康状態

6歳以上の者（入院者は除く。）について、自覚症状の有無、通院の有無、日常生活影響の有無による健康状態をみると、「自覚症状・通院・生活影響ともあり」の者は男6.7%、女8.7%となっており、「自覚症状・通院・生活影響ともなし」の者は男51.4%、女43.9%となっている。（表14、図16）

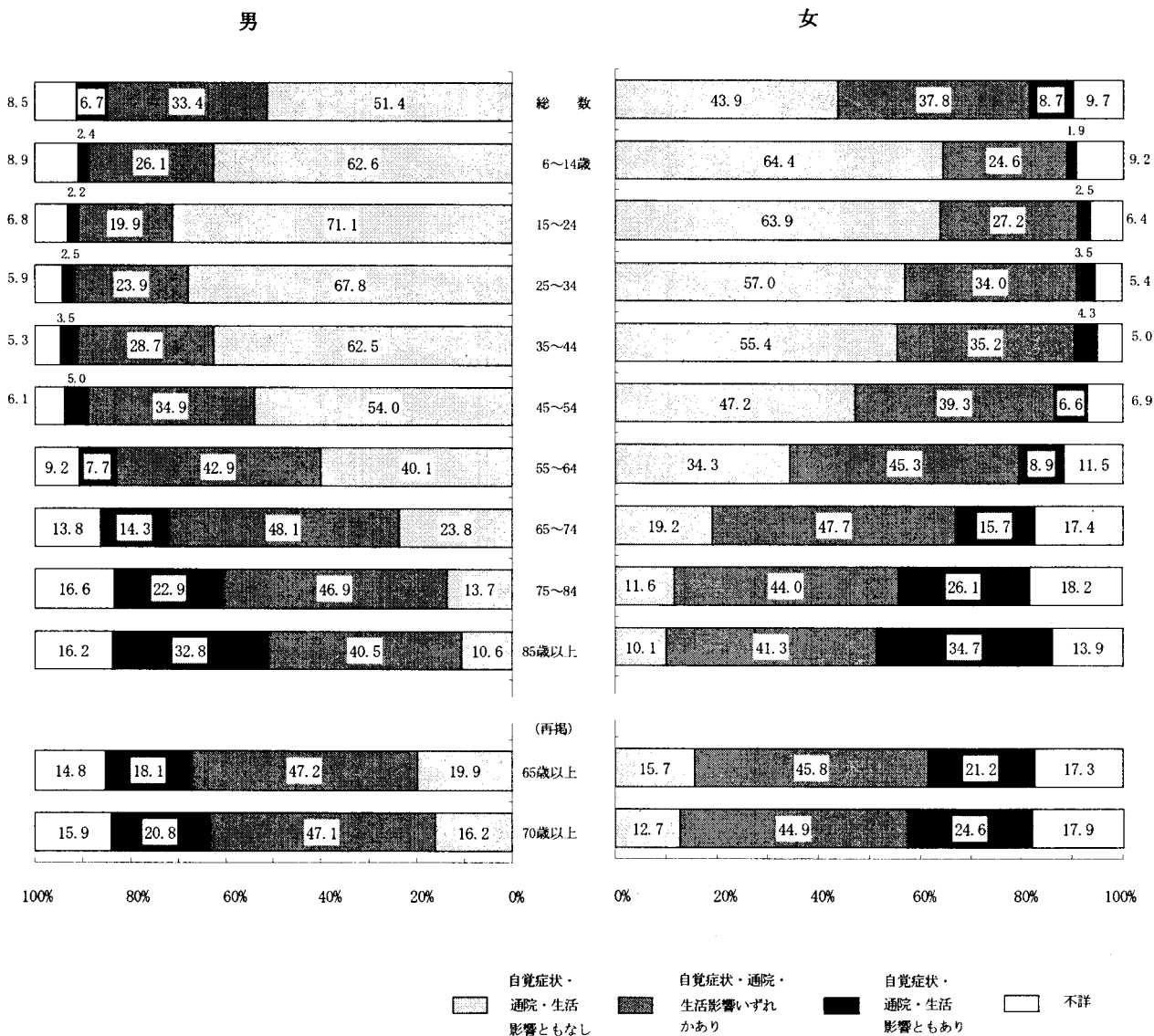
表14 健康状態の構成割合

(単位：%)		平成16年		
性	総数	自覚症状・通院・生活影響ともなし	自覚症状・通院・生活影響いずれもあり	自覚症状・通院・生活影響ともあり
総数	100.0	47.5	35.7	7.7
男	100.0	51.4	33.4	6.7
女	100.0	43.9	37.8	8.7

注：1) 入院者は含まない。
2) 「総数」には、健康状態不詳を含む。

図16 性・年齢階級別にみた健康状態の構成割合

平成16年



5 健康意識

6歳以上の者（入院者は除く。）について、健康意識の構成割合をみると、自分の健康をよいと思っている者（「よい」と「まあよい」をあわせた者）は41.3%となっており、「ふつう」40.4%、「あまりよくない」10.4%、「よくない」1.5%となっている。

自分の健康をよいと思っている者を性別にみると、男43.5%、女39.3%となっている。（表15）

表15 性・年齢階級別にみた健康意識の構成割合

（単位：％）

平成16年

性 年齢階級	総 数	よ い と 思 っ て い る 者	よ い と 思 っ て い る 者		ふ つ う	あ ま り よ く な い	よ く な い	不 詳
			よ い	ま あ よ い				
総 数	100.0	41.3	24.8	16.5	40.4	10.4	1.5	6.4
6 ～ 14 歳	100.0	65.6	48.1	17.6	25.6	2.3	0.2	6.3
15 ～ 24	100.0	51.6	33.2	18.5	38.1	5.3	0.6	4.5
25 ～ 34	100.0	48.3	29.8	18.5	39.4	7.6	0.9	3.8
35 ～ 44	100.0	45.3	26.6	18.7	41.6	8.9	0.8	3.3
45 ～ 54	100.0	37.2	21.0	16.2	46.8	10.5	1.1	4.5
55 ～ 64	100.0	34.3	19.0	15.3	45.1	11.4	1.5	7.7
65 ～ 74	100.0	28.3	14.1	14.2	41.7	16.2	2.7	11.1
75 ～ 84	100.0	22.3	9.5	12.8	38.7	22.3	4.7	12.1
85歳以上 (再 掲)	100.0	17.4	7.1	10.3	37.5	26.3	7.9	10.9
65歳以上	100.0	25.4	12.0	13.4	40.4	19.0	3.8	11.4
70歳以上	100.0	23.3	10.2	13.0	39.4	21.1	4.4	11.8
男	100.0	43.5	26.7	16.7	39.8	9.2	1.4	6.1
6 ～ 14 歳	100.0	65.7	48.1	17.6	25.5	2.3	0.2	6.3
15 ～ 24	100.0	53.8	35.0	18.8	36.5	4.4	0.5	4.8
25 ～ 34	100.0	49.6	31.4	18.2	38.7	6.7	0.9	4.1
35 ～ 44	100.0	46.0	27.7	18.3	41.2	8.1	0.9	3.8
45 ～ 54	100.0	38.8	22.6	16.3	46.4	9.3	1.1	4.4
55 ～ 64	100.0	36.4	20.5	15.9	44.6	10.6	1.5	6.9
65 ～ 74	100.0	30.6	16.2	14.4	41.5	15.3	2.7	9.9
75 ～ 84	100.0	25.3	11.6	13.7	37.2	20.9	4.9	11.6
85歳以上 (再 掲)	100.0	18.2	7.9	10.3	36.2	25.4	7.9	12.3
65歳以上	100.0	28.2	14.3	13.9	39.9	17.7	3.7	10.6
70歳以上	100.0	26.1	12.3	13.7	38.8	19.6	4.3	11.2
女	100.0	39.3	23.0	16.3	41.0	11.5	1.5	6.6
6 ～ 14 歳	100.0	65.6	48.0	17.5	25.6	2.4	0.2	6.3
15 ～ 24	100.0	49.4	31.3	18.1	39.7	6.1	0.6	4.2
25 ～ 34	100.0	47.1	28.3	18.8	40.0	8.6	0.8	3.5
35 ～ 44	100.0	44.7	25.6	19.1	42.0	9.6	0.8	2.9
45 ～ 54	100.0	35.6	19.5	16.1	47.2	11.7	1.0	4.5
55 ～ 64	100.0	32.3	17.6	14.8	45.6	12.2	1.4	8.4
65 ～ 74	100.0	26.4	12.3	14.1	41.9	17.0	2.6	12.1
75 ～ 84	100.0	20.2	8.1	12.1	39.7	23.2	4.5	12.4
85歳以上 (再 掲)	100.0	17.0	6.7	10.3	38.1	26.7	7.9	10.3
65歳以上	100.0	23.3	10.3	13.0	40.8	20.1	3.8	12.1
70歳以上	100.0	21.2	8.7	12.5	39.8	22.2	4.5	12.3

注：入院者は含まない。

6 悩みやストレスの状況

12歳以上の者（入院者は除く。）について、日常生活での悩みやストレスの有無別構成割合をみると「ある」49.1%、「ない」45.0%となっている。（図17）

悩みやストレスがある者を性別にみると、男44.6%、女53.3%で、年齢階級別にみると、男は「45～54歳」、女は「35～44歳」が最も多く、年齢階級が高くなるに従ってその割合はおおむね減少傾向にある。（表16）

なお、15歳以上の仕事のある者（入院者を除く。）について、職業別にみると、男では「販売従事者」「管理的職業従事者」、女では「保安職業従事者」「専門的・技術的職業従事者」が多くなっており、すべての職業において女が男を上回っている。（図18）

図17 悩みやストレスの有無別構成割合

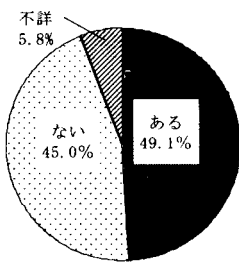


表16 性・年齢階級別にみた悩みやストレスがある者の割合

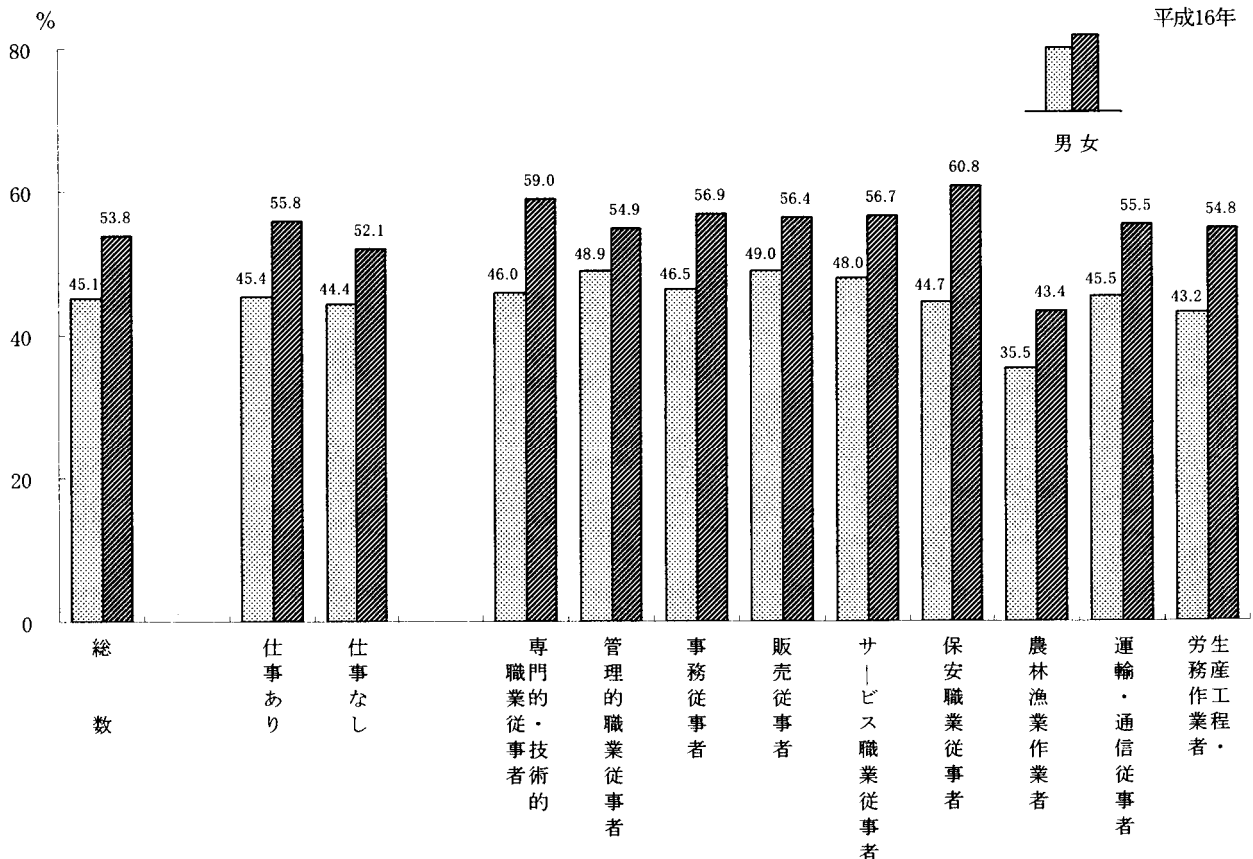
(単位:%)

性	総数	年齢階級										平成16年	
		12~14歳	15~24	25~34	35~44	45~54	55~64	65~74	75~84	85歳以上	(再掲) 65歳以上	(再掲) 70歳以上	
総数	49.1	35.2	44.1	50.7	54.8	54.3	49.6	45.1	45.6	45.0	45.3	45.2	
男	44.6	31.3	39.4	44.6	48.4	49.5	46.0	41.9	42.6	45.2	42.3	42.3	
女	53.3	39.2	48.7	56.5	60.9	59.1	53.0	48.0	47.7	45.0	47.6	47.3	

注: 1) 入院者は含まない。

2) 表16は12歳以上の者について観察しているため、本表と図18の「総数」は一致しない。(図18については、15歳以上について観察)

図18 性・仕事の有無－職業別にみた悩みやストレスがある者の割合



また、悩みやストレスがある者について、その原因をみると、男女ともに「自分の健康・病気」が最も多く、次いで「将来・老後の収入」、「収入・家計・借金」の順となっている。(表17)

表17 性・年齢階級別にみた上位3位までの悩みやストレスの原因(複数回答)

総数

(単位：%)

平成16年

	第1位		第2位		第3位	
総数	自分の健康・病気	32.1	将来・老後の収入	28.1	収入・家計・借金	23.2

男

年齢階級	第1位		第2位		第3位	
総数	自分の健康・病気	30.6	将来・老後の収入	29.5	収入・家計・借金	24.6
12～14歳	自分の学業・受験・進学	73.9	家族以外との人間関係	19.0	家族との人間関係	11.7
15～24		42.5		20.9	生きがいに関すること	15.6
25～34	収入・家計・借金	30.8	将来・老後の収入	25.9	自分または配偶者の仕事に関すること	25.0
35～44		35.1		30.4		26.9
45～54	将来・老後の収入	36.7	収入・家計・借金	32.4	自分の健康・病気	28.7
55～64		43.9	自分の健康・病気	40.9	収入・家計・借金	25.1
65～74	自分の健康・病気	55.3	自分の老後の介護	33.4	将来・老後の収入	30.2
75～84		61.2		35.0	同居家族の健康・病気	25.8
85歳以上		62.5		32.7		20.5
(再掲)65歳以上		57.6		33.8		24.7
(再掲)70歳以上		59.8		34.2	24.6	

女

年齢階級	第1位		第2位		第3位	
総数	自分の健康・病気	33.3	将来・老後の収入	26.9	収入・家計・借金	22.1
12～14歳	自分の学業・受験・進学	72.8	家族以外との人間関係	37.4	家族との人間関係	11.3
15～24		39.2		31.7	恋愛	18.5
25～34	収入・家計・借金	29.7	将来・老後の収入	23.9	家族以外との人間関係	23.1
35～44	子どもの教育	39.8	収入・家計・借金	36.1	将来・老後の収入	29.5
45～54	将来・老後の収入	37.6	自分の健康・病気	32.3	収入・家計・借金	30.8
55～64	自分の健康・病気	44.1	将来・老後の収入	39.1	自分の老後の介護	29.0
65～74		57.1	自分の老後の介護	40.7	将来・老後の収入	24.6
75～84		60.9		39.7	同居家族の健康・病気	17.7
85歳以上		64.5		36.5	家族との人間関係	16.3
(再掲)65歳以上		59.1	39.9	同居家族の健康・病気	20.6	
(再掲)70歳以上		60.9	40.0		18.8	

注：1) 入院者は含まない。

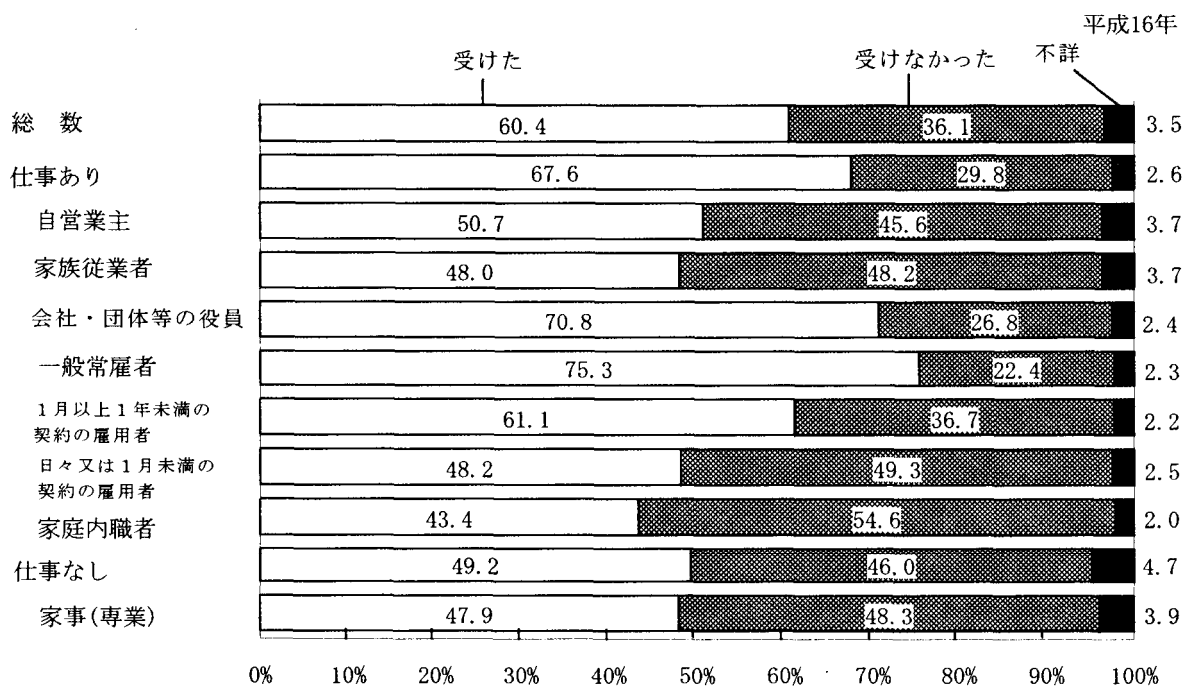
2) 原因の数値は、各々の年齢階級で「悩みやストレスがある」と回答した者を100とした割合である。

7 健診（健康診断や健康診査）や人間ドックの受診状況

20歳以上の者（入院者は除く。）について、過去1年間の健診（健康診断や健康診査）や人間ドックの受診状況をみると、受けた者は60.4%、受けなかった者は36.1%となっている。

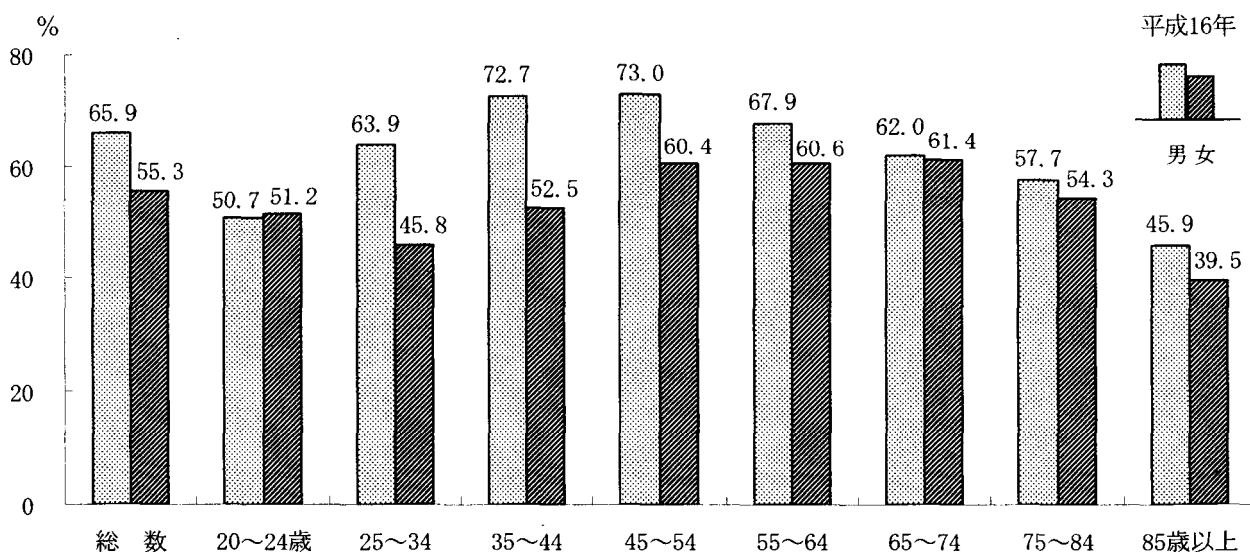
仕事の有無別に健診や人間ドックを受けた者の割合をみると、「仕事あり」は67.6%、「仕事なし」は49.2%である。「仕事あり」の者をみると、「一般常雇者」が75.3%と最も多くなっている。（図19）

図19 仕事の有－勤めか自営か－無別にみた健診や人間ドックの受診状況の構成割合



また、健診や人間ドックを受けた者を年齢階級別でみると、男は「45～54歳」が73.0%と多く、女は「65～74歳」が61.4%と多くなっている。（図20）

図20 性・年齢階級別にみた健診や人間ドックを受けた者の割合



健診や人間ドックを受けた者はどのような機会に受けたのかをみると、男は「職場における健診」が55.1%と最も多く、次いで「市区町村で行う健診」が22.6%、「人間ドック」が9.1%となっており、女は「市区町村で行う健診」が43.5%で最も多く、次いで「職場における健診」が34.1%、「人間ドック」が6.9%となっている。(表18)

表18 性別にみた健診や人間ドックの受診機会の割合 (20歳以上・複数回答)
(単位: %)

性	総数	市区町村で行う健診	職場における健診	学校における健診	人間ドック	その他
総数	100.0	32.6	45.0	2.2	8.0	5.4
男	100.0	22.6	55.1	2.3	9.1	4.5
女	100.0	43.5	34.1	2.0	6.9	6.4

注: 1) 入院者は含まない。
2) 健診や人間ドックを受けた者を100とした割合である。

また、健診や人間ドックを受けなかった者について、その理由別にみると、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が29.6%と多くなっている。(表19)

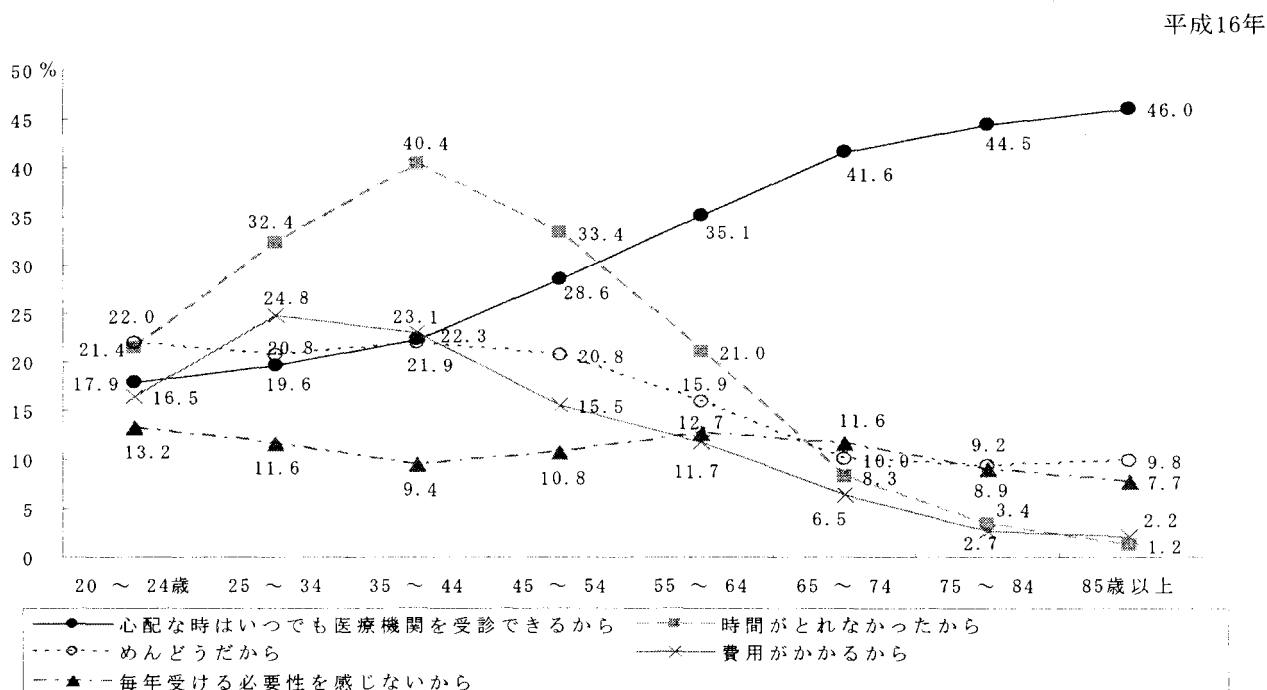
年齢階級別にみると、25~54歳では「時間がとれなかったから」が多く、55歳以上では「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が多くなっている。(図21)

表19 健診や人間ドックを受けなかった理由の割合 (20歳以上・複数回答)
(単位: %)

総数	心配な時はいつでも医療機関を受診できるから	時間がとれなかったから	めんどうだから	費用がかかるから	毎年受ける必要性を感じないから	健康状態に自信があり、必要性を感じないから	その時、医療機関に入通院していたから	知らなかったから	結果が心配なため、受けたくないから	検査等に不安があるから	場所が遠いから	その他	
総数	100.0	29.6	24.5	17.5	15.3	11.1	10.5	6.9	4.6	4.6	3.1	1.8	9.9

注: 1) 入院者は含まない。
2) 健診や人間ドックを受けなかった者を100とした割合である。

図21 年齢階級別にみた健診や人間ドックを受けなかった理由の割合 (20歳以上・複数回答)



IV 介護の状況

1 要介護者等のいる世帯の状況

介護保険法の要支援又は要介護と認定された者（以下「要介護者等」という。）のいる世帯を世帯構造別にみると、「核家族世帯」30.4%、次いで「三世代世帯」が29.4%となっている。

世帯構造別に要介護度の状況をみると、「単独世帯」では要介護度の低い者のいる世帯の割合が多く、「三世代世帯」では、他の世帯構造別に比べて「要介護度5」の者のいる世帯の割合が多くなっている。（表20）

表20 要介護者等のいる世帯の世帯構造別にみた要介護度の構成割合

（単位：％）

平成16年

要介護度	総数	単独世帯	核家族世帯	(再掲) 夫婦のみの 世帯	三世代世帯	その他の世帯	(再掲)
							高齢者世帯
総数	[100.0]	[20.2]	[30.4]	[19.5]	[29.4]	[20.0]	[40.4]
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
要支援者のいる世帯	17.6	32.1	15.3	16.6	13.8	11.9	23.6
要介護者のいる世帯	80.6	65.4	82.5	81.7	84.8	86.9	74.4
要介護1	34.0	42.4	33.3	31.3	30.7	31.2	36.0
要介護2	17.3	12.9	18.6	21.1	17.9	18.9	16.2
要介護3	11.7	5.9	11.9	11.0	13.5	14.3	9.3
要介護4	9.7	3.5	10.0	10.1	11.4	12.9	7.9
要介護5	8.0	0.8	8.6	8.1	11.3	9.6	5.0

注：1) 「総数」には、要介護度不詳を含む。

2) 世帯に複数の要介護者等がいる場合は、要介護の程度が高い者のいる世帯に計上した。

2 要介護者等の状況

要介護者等を年齢階級別にみると、「80～84歳」が24.6%、次いで「85～89歳」が19.5%となっている。性別にみると、男32.7%、女67.3%と女が多くなっている。（表21）

表21 性・年齢階級別にみた要介護者等の構成割合

（単位：％）

平成16年

性	総数	40～64歳	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	(再掲)	
									65歳以上	
総数	[100.0]	100.0	5.2	5.8	12.1	18.0	24.6	19.5	14.9	94.8
男	[32.7]	100.0	8.5	8.5	15.4	18.2	21.1	17.6	10.6	91.5
女	[67.3]	100.0	3.6	4.5	10.4	17.8	26.3	20.4	17.0	96.3

注：「総数」には、要介護者等の年齢不詳を含む。

介護が必要となった主な原因をみると、要支援者では「高齢による衰弱」が22.2%、「関節疾患（リウマチ等）」が17.5%の順となっている。要介護者では「脳血管疾患（脳卒中など）」が29.1%と多く、要介護度が高い程、割合も多くなっている。（表22）

表22 要介護度別にみた介護が必要となった主な原因の構成割合

要介護度	総数	脳血管疾患 (脳卒中など)	高齢による 衰弱	骨折・転倒	認知症	関節疾患 (リウマチ 等)	心臓病	視覚・聴覚 障害	呼吸器疾患 (肺炎・肺 気腫)	糖尿病	脊髄損傷	がん(悪性 新生物)	パーキンソ ン病	その他	不明	不詳
総 数	100.0	25.7	16.3	10.8	10.7	10.6	4.1	2.7	2.5	2.4	2.2	1.7	1.6	6.9	0.8	1.0
要支援者	100.0	11.8	22.2	10.5	3.3	17.5	6.5	4.7	2.9	3.2	2.7	1.7	0.9	8.5	1.8	1.9
要介護者	100.0	29.1	14.9	10.9	12.5	8.9	3.7	2.2	2.4	2.3	2.0	1.7	1.8	6.4	0.5	0.6
要介護1	100.0	21.9	16.7	13.1	7.0	14.3	5.0	3.1	3.1	2.5	2.5	1.9	1.3	6.3	0.5	0.9
要介護2	100.0	29.6	16.0	10.3	12.1	6.4	3.7	2.3	1.9	2.9	2.4	1.8	1.5	8.0	0.8	0.5
要介護3	100.0	33.6	13.3	11.9	18.6	3.7	1.9	0.9	2.7	1.8	1.3	2.1	1.8	5.6	0.4	0.5
要介護4	100.0	36.4	14.7	7.3	18.9	5.6	2.4	1.6	1.2	1.3	1.3	0.6	3.3	5.0	0.1	0.3
要介護5	100.0	44.5	7.6	5.5	21.7	2.1	2.0	0.9	1.8	2.1	0.6	1.2	3.1	6.3	0.5	0.3

注：「総数」には、要介護度不詳を含む。

平成16年

3 主な介護者の状況

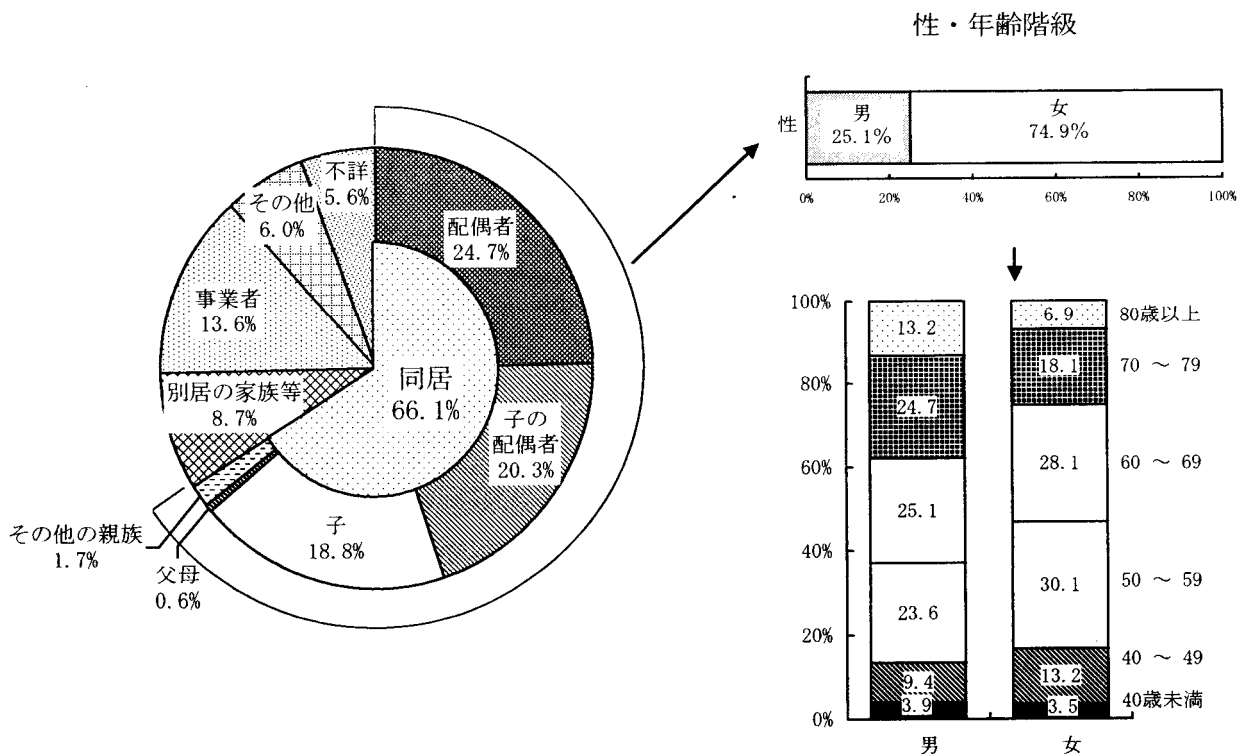
主な介護者と要介護者等との続柄をみると、要介護者等と同居している家族等介護者が66.1%、別居している家族等介護者が8.7%、事業者は13.6%となっている。

同居している主な介護者の続柄をみると、「配偶者」24.7%、「子の配偶者」20.3%、「子」18.8%となっている。

また、同居家族等の主な介護者を性別にみると、男は25.1%、女74.9%と女が多くなっている。年齢階級別にみると、男は「60～69」歳が25.1%、女は「50～59歳」が30.1%と多くなっている。（図22）

図22 主な介護者と要介護者等との続柄及び同別居の構成割合

平成16年



要介護者等と同居している主な介護者と要介護者等の組合せを年齢階級別にみると、「70～79歳」の要介護者等では、「70～79歳」の者が介護している割合が多く、「80～89歳」の要介護者等では、「50～59歳」の者が介護している割合が多くなっている。（表23）

表23 性・年齢階級別にみた同居している主な介護者と要介護者等の構成割合

（単位：％）

平成16年

同居している主な介護者の性・年齢階級	要 介 護 者 等						
	総数	40～64歳	65～69	70～79	80～89	90歳以上	(再掲) 65歳以上
総数	[100.0]	[6.0]	[6.0]	[28.7]	[42.3]	[17.0]	[94.0]
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
40歳未満	3.6	12.6	4.8	5.1	2.5	0.3	3.0
40～49歳	12.2	3.9	12.1	18.4	13.1	2.8	12.8
50～59	28.5	31.5	6.4	16.2	38.1	31.9	28.3
60～69	27.4	38.4	54.6	16.0	21.4	47.7	26.7
70～79	19.7	10.6	18.2	38.1	12.0	11.8	20.3
80歳以上	8.5	3.1	2.6	6.3	12.9	5.4	8.9
男	25.1	34.7	39.9	31.4	21.6	14.8	24.5
40歳未満	1.0	1.2	2.2	1.4	0.9	-	1.0
40～49歳	2.4	1.3	4.5	3.3	2.4	0.4	2.4
50～59	5.9	10.9	1.8	4.9	7.6	3.3	5.6
60～69	6.3	17.8	16.1	2.2	5.3	8.0	5.6
70～79	6.2	3.5	13.3	14.4	1.4	2.6	6.4
80歳以上	3.3	-	0.7	5.4	3.9	0.5	3.5
女	74.9	65.3	60.1	68.6	78.4	85.2	75.5
40歳未満	2.6	11.3	2.6	3.7	1.6	0.3	2.1
40～49歳	9.9	2.6	7.6	15.1	10.7	2.5	10.3
50～59	22.5	20.7	4.6	11.4	30.5	28.6	22.7
60～69	21.1	20.6	38.4	13.7	16.1	39.7	21.1
70～79	13.5	7.1	4.9	23.7	10.5	9.2	14.0
80歳以上	5.2	3.1	2.0	1.0	8.9	4.9	5.3

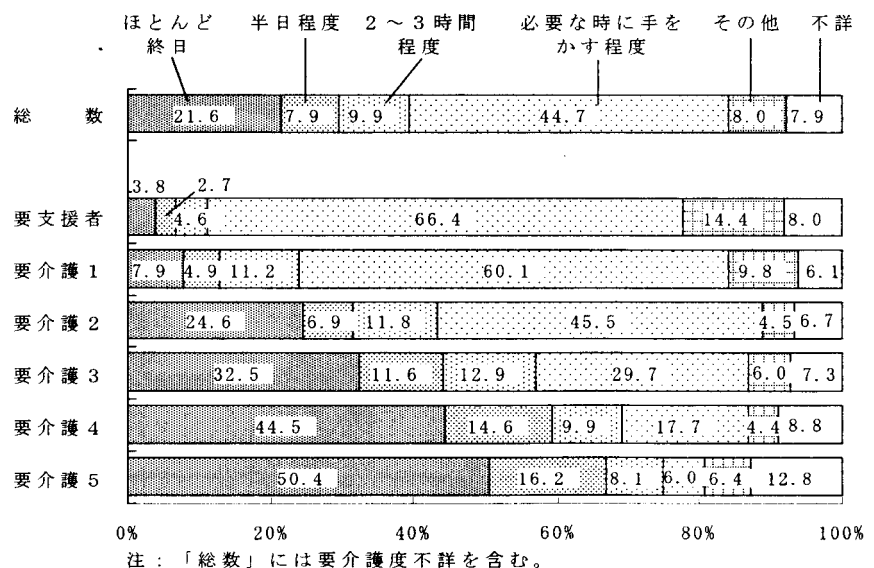
注：「総数」には、要介護者等の年齢不詳、主な介護者の年齢不詳を含む。

図23 要介護者等の要介護度別にみた同居している
主な介護者の介護時間別構成割合

平成16年

要介護者等と同居している主な介護者の介護時間をみると、「要支援者」では「必要な時に手をかす程度」が66.4%と多くなっている。

要介護度別にみると、要介護1、要介護2では「必要な時に手をかす程度」が最も多くなっているが、要介護3以上では「ほとんど終日」が最も多くなっている。（図23）



4 要介護者等と同居している主な介護者の悩みやストレスの状況

要介護者等と同居している主な介護者の日常生活での悩みやストレスをみると、「日常生活での悩みやストレスがある」者は、性別にみると男55.6%、女67.5%となっており、年齢階級別でみると、男は「40歳未満」が67.6%と多く、女は「40～49歳」、「50～59歳」が72.8%、71.5%と多くなっている。(図24)

悩みやストレスの原因をみると、男女とも「同居家族の介護」、「同居家族の健康・病気」についての悩みやストレスが多くなっている。(図25)

図24 性・年齢階級別にみた同居している主な介護者の悩みやストレスのある者の割合

平成16年

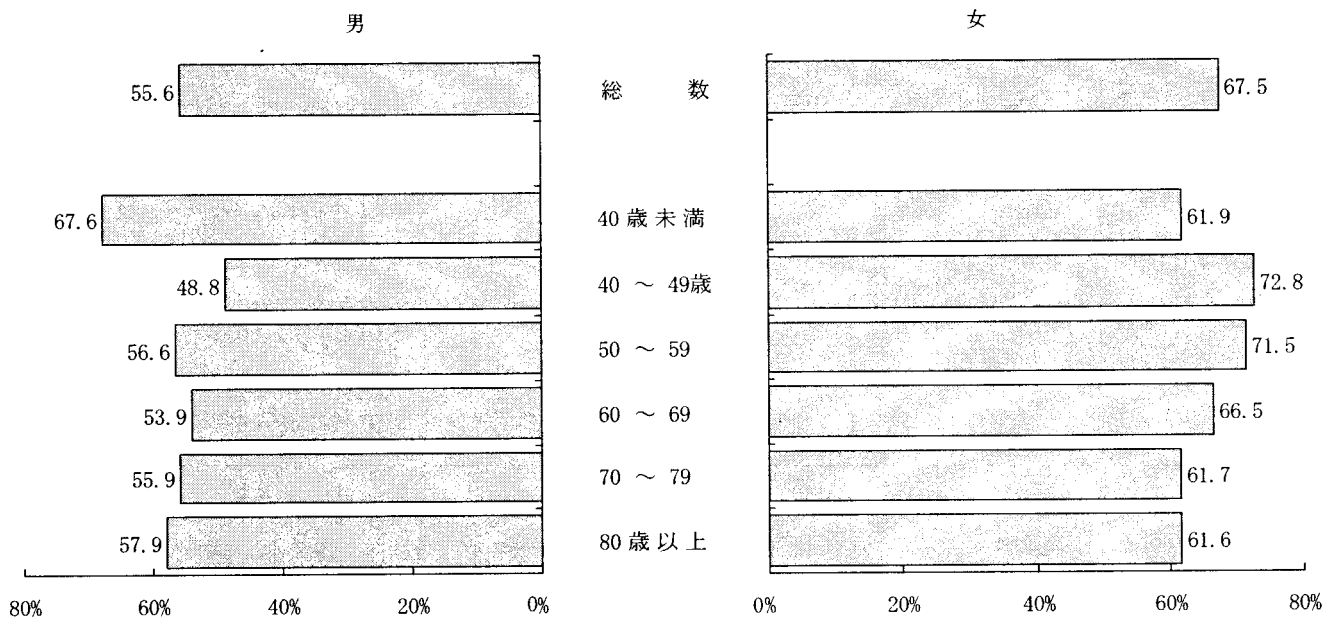
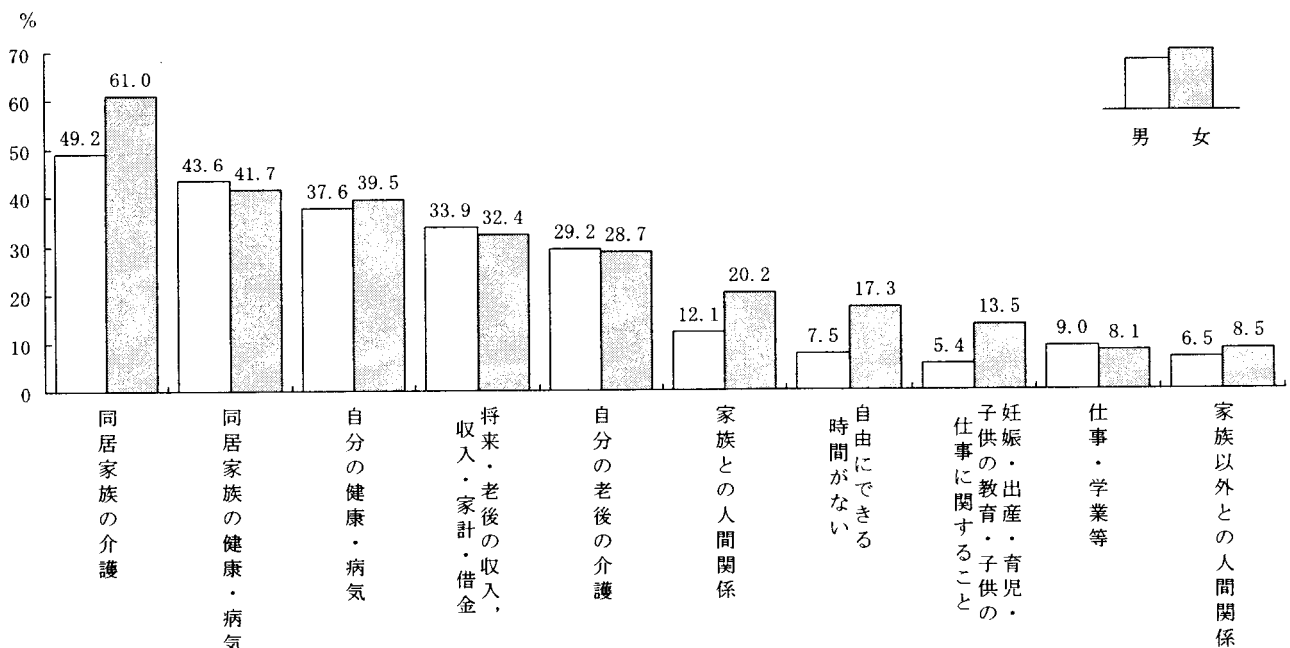


図25 性別にみた同居している主な介護者の悩みやストレスの原因の割合 (複数回答)

平成16年



5 居宅サービスの利用状況

要介護者等の5月中の居宅サービスの利用状況をみると、居宅サービスを1種類でも利用した者は73.1%で、世帯構造別にみると、単独世帯では86.9%、三世帯世帯では70.3%、核家族世帯では68.2%となっている。

居宅サービスの種類をみると、単独世帯では、「訪問系のサービス」が75.0%と多く、「配食サービス」も15.9%と他の世帯構造に比べて多くなっている。また、三世帯世帯では、「通所系のサービス」が47.6%となっている。（表24）

表24 世帯構造別にみた居宅サービスの利用状況別構成割合（複数回答）

（単位：％）

平成16年

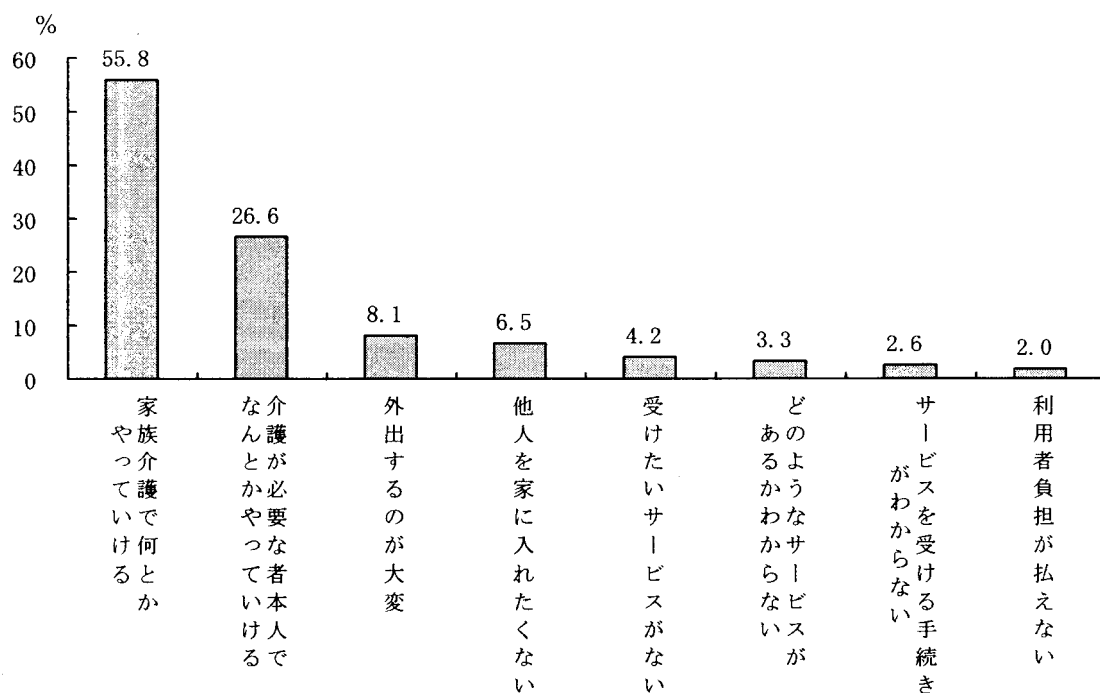
利用の有無 居宅サービスの種類	総数	単独世帯	核家族世帯	(再掲) 夫婦のみの 世帯	三世帯世帯	その他の世帯	(再掲) 高齢者世帯
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
利用した	73.1	86.9	68.2	69.9	70.3	72.1	77.8
訪問系のサービス	54.2	75.0	53.2	54.0	46.5	47.1	62.8
通所系のサービス	38.9	29.3	31.5	29.6	47.6	47.0	30.4
短期入所サービス	10.0	3.4	5.9	6.3	14.8	16.0	6.1
配食サービス	6.7	15.9	8.2	9.0	1.7	3.1	12.1
外出支援サービス	3.4	4.5	4.0	4.2	3.2	2.0	4.0
寝具類等洗濯乾燥消毒サービス	1.5	3.0	2.2	2.5	0.6	0.2	2.6
利用しなかった	26.9	13.1	31.8	30.1	29.7	27.9	22.2

注：「訪問系のサービス」には、訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、「通所系のサービス」には、通所介護、通所リハビリテーション、「短期入所サービス」には、短期入所生活介護、短期入所療養介護を含む。

要介護者等の5月中の訪問系のサービス、通所系のサービス、短期入所サービスを利用しなかった者の利用しなかった理由をみると、「家族介護で何とかやっけていける」が55.8%と最も多く、次いで「介護が必要な者本人で」が26.6%となっている。（図26）

図26 訪問系・通所系・短期入所サービスを利用していない者の利用しなかった理由の割合（複数回答）

平成16年



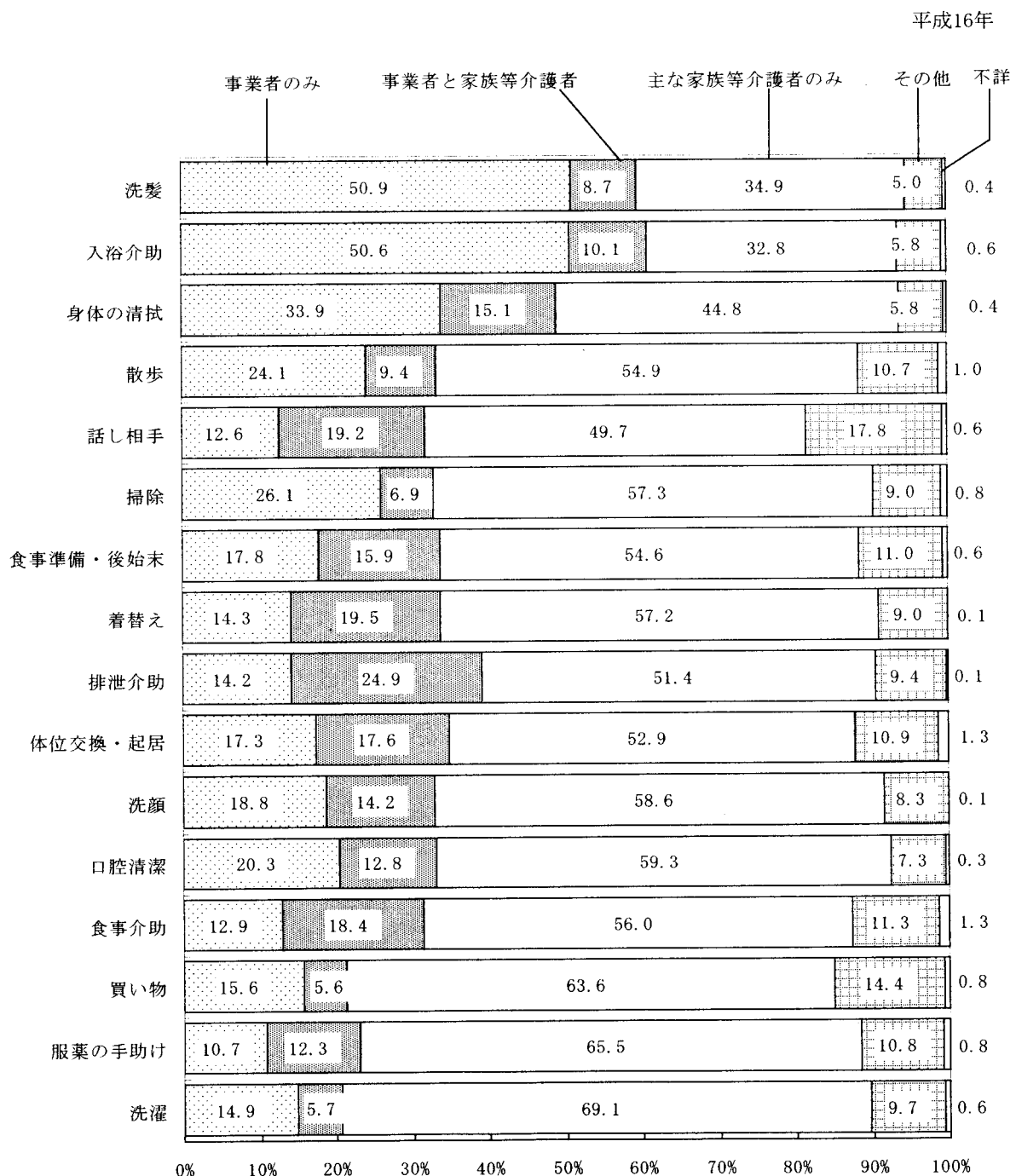
6 介護者の組合せの状況

要介護者等が家族・親族等や訪問介護事業者から受けている16項目の介護内容について、介護者の組合せの状況をみると、「事業者のみ」の割合が最も多いのは「洗髪」の50.9%であり、次いで、「入浴介助」50.6%、「身体の清拭」33.9%となっている。

「主な家族等介護者のみ」による介護の割合は、「洗髪」、「入浴介助」を除いて他のすべての項目で最も多くなっている。

また、「事業者と家族等介護者」による介護の割合は、「排泄介助」、「着替」、「話し相手」で多くなっている。(図27)

図27 介護内容別にみた介護者の組合せの状況別構成割合



注：「その他」とは、「主な家族等介護者」とその他の家族等介護者「その他の家族等介護者のみ」をいう。

